

## 北西大西洋漁業機関（<sup>ナ</sup><sup>フ</sup><sup>ォ</sup>NAFO）「年次会合」の結果について

### 1 北西大西洋漁業機関

北西大西洋における底魚等の資源管理を行う国際機関。

メンバーは、日本、カナダ、EU、米国等12ヶ国・1地域。

### 2 日時・場所

9月23日（月）から27日（金）まで、ハリファックス（カナダ）で開催（対面及びウェブ形式の併催）。

### 3 我が国出席者

野村農林水産省顧問（我が国代表）ほか、水産庁、外務省、国立研究開発法人水産研究・教育機構及び業界関係者が参加。

### 4 結果

(1) 令和7年（2025年）の資源管理措置

カラスガレイの総漁獲可能量（TAC）は14,791トン（昨年から362トン減少）とされた。我が国の割当量はTACと同等の比率で削減され、1,123.5トン（昨年から27.5トン減少）となった。

アカウオの我が国の割当量は、昨年と同量の550トンとなった。

(2) 3M海区のエビ資源に関する割当基準

一昨年より検討されてきた当該資源の割当基準の議論は今次会合では行われなかった。

(3) 次回会合

令和7年（2025年）9月にカナダで開催予定。

[参考] 我が国主要魚種の漁獲割当（トン）

魚 種	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
カラスガレイ	1,255	1,286	1,253	1,205	1,151	1,151
アカウオ	550	550	550	550	550	550